

身近な細菌について考える

身近なところに細菌はいます。そのため、搾乳衛生に関わる様々な点について細菌調査を実施してみました。その中の一部を紹介します。

1. 手

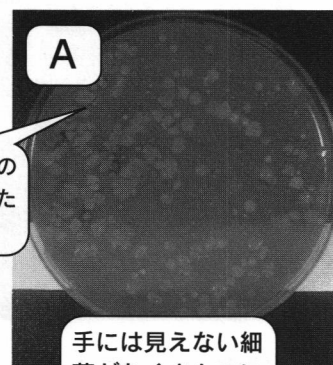
人間の手は、想像以上に汚れが落ちづらく、付きやすいです。搾乳グローブなら汚れを落とし易いです。



②水洗浄後の手の細菌を培養したもの



手についた細菌は、水洗いでは落ちません。



①洗浄前の手の細菌を培養したもの

手には見えない細菌がたくさんついています。



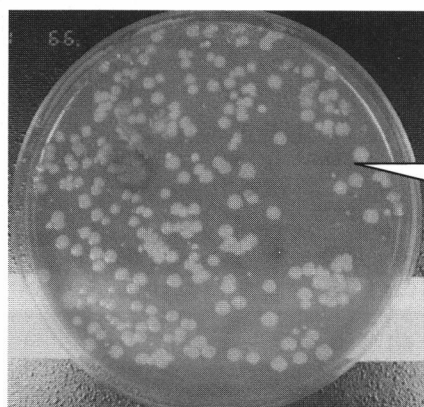
殺菌しても、また乳頭に触れば細菌がつきます。

③細菌後、乳頭に触れた手の細菌を培養したもの

A : 手を綿棒で採取したもの
B : 培地に直接手を付けたもの

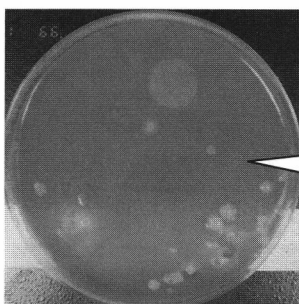
2. 前搾り乳

同じ乳頭から搾った生乳を順番に培養しました。1回目（1搾り目）の前搾り乳は細菌数が多いです。2回目（2搾り目）以降は少なくなっています。前搾り乳は必ずストリップカップで受けます。

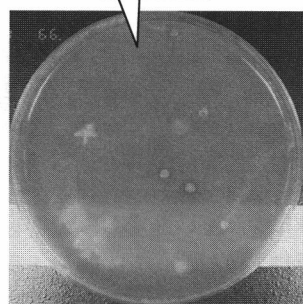


1回目の生乳を培養したもの

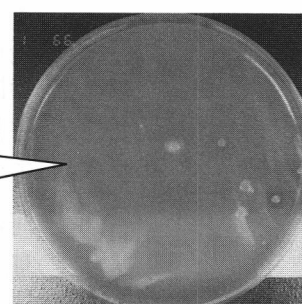
2回目以降著しく細菌数が減少しています。



2回目



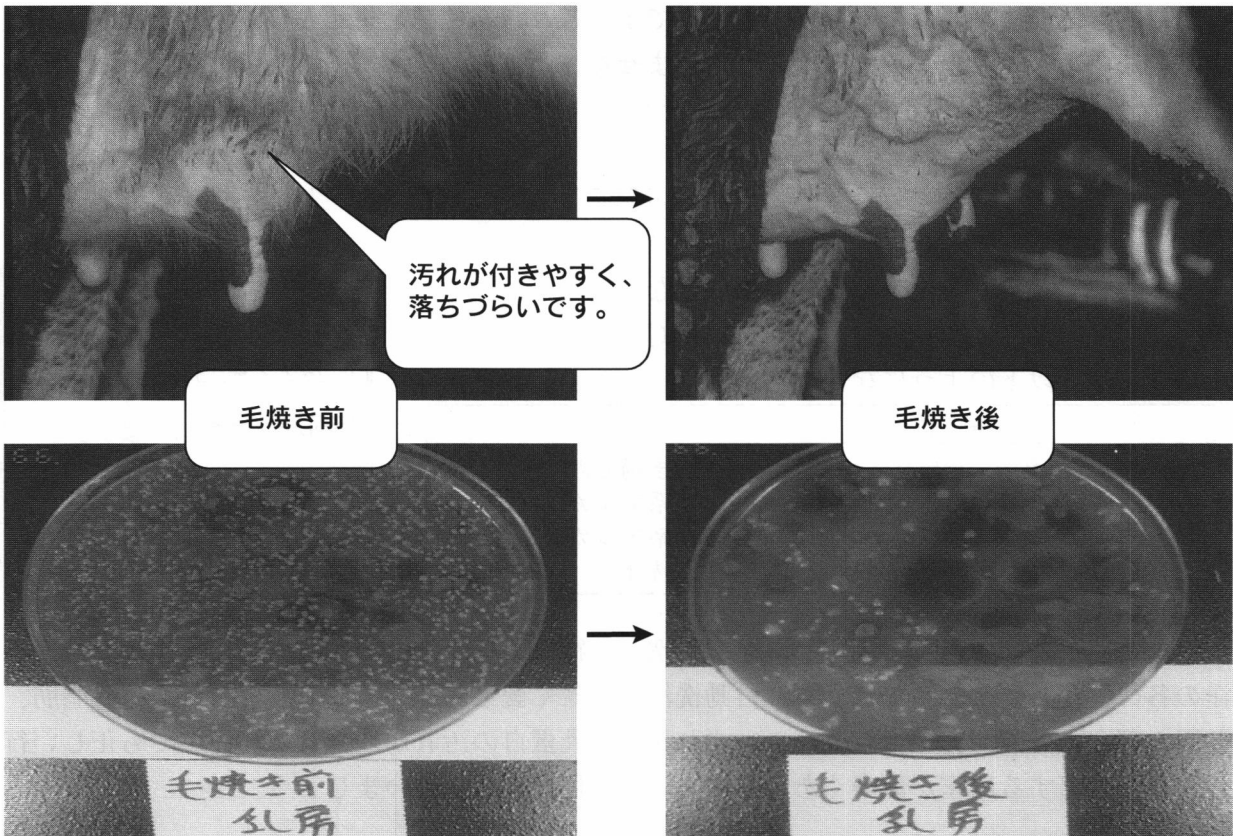
3回目



4回目

3. 毛焼き (乳房)

毛焼きを実施することにより、細菌や糞尿が乳房に付着する量が少なくなり、乳房をきれいに保てます。



V残っています
んか、汚れ

4. 牛舎の換気

換気の良否により、牛舎内の浮遊細菌の量は大きく違います。

